

ものづくりのまちである北九州市は**人口減少・少子高齢化**に直面。市内だけでなく**首都圏のリソースも最大限活かし、産業界、介護分野**でいち早くDXにチャレンジし、**住みよいまちを実現。**

地域企業の様々な課題

- ・ 経営者の意識変革が求められる
- ・ 慢性的な人手不足
- ・ 社内DX人材の不足

- ・ 古いシステム、ペーパー管理
- ・ システムがバラバラ
- ・ 場当たりの設備投資

- ・ 費用対効果が分からない
- ・ 予算がない/足りない

- ・ 身近な事例を知りたい
- ・ デジタル機器を体験したい
- ・ ベンダー/専門家と接点がない

地域産業DXに向けて

- ・ **ヒト、モノ、カネ、情報の**全てにおいて課題は山積
- ・ **取組みの進度も様々**
- ・ DXに取り組む企業の**裾野を広げるとともに、真のDX**に取り組もうとする企業を後押し



北九州市DX推進
プラットフォーム

↓
スライド3-8



先進的介護
北九州モデル

↓
スライド9-11

地域企業の様々課題を産学官で連携して解決。DX機運醸成、DX準備、DX実践と切れ目のない支援体制を構築し、市内企業の生産性向上、新たな価値創出を実現させる。



DX実践(P8)

- ・北九州市独自の補助金制度
- ・専門コンサルのサポート

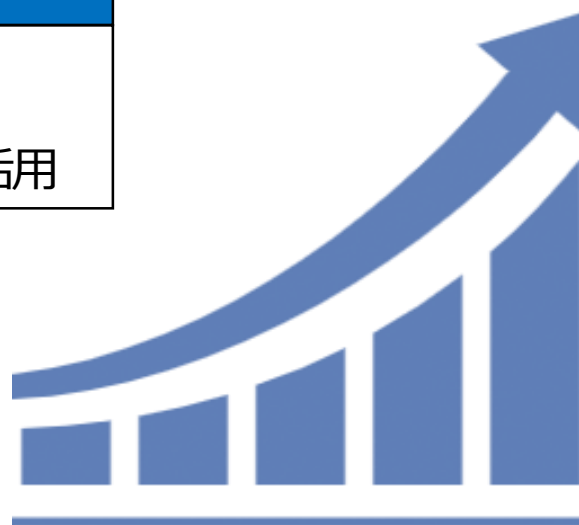
DX準備(P6-7)

- ・相談対応、伴走支援
- ・人材育成
- ・首都圏、学生の知見活用

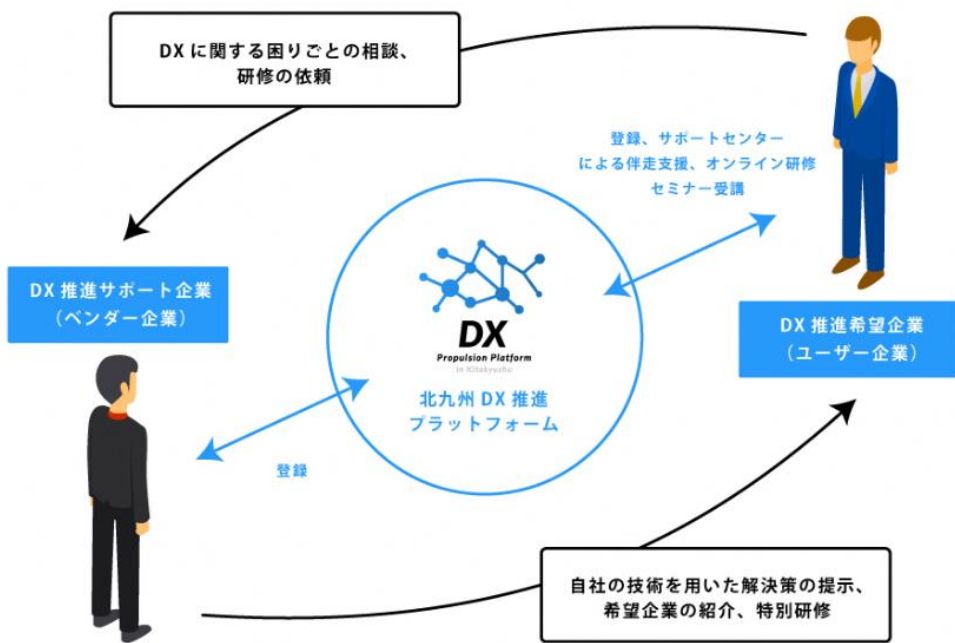
DX機運の醸成(P4-5)

- ・DX推進プラットフォーム
- ・セミナー、導入事例紹介
- ・推進拠点創設、展示会

生産性向上
目標 2023年300社
新たな価値創出



DXを推進したい市内ユーザー企業とデジタル化やデータ活用等を提案できるベンダー企業をつなぐプラットフォームを創設(令和2.12)。219社参加。



現在の取組み

プラットフォームでは、次ページ以降記載のセミナー、相談、補助事業等を通じDXを推進。

さらなる取組み

現在、2つのシステムを準備中。
(令和4.春完成予定)

労働生産性
見える化
システム



自社の成長度、会員企業内での立ち位置が把握可能

ニーズ・シーズ
マッチング
システム



ユーザーニーズとベンダーシーズが把握できスピード感もって解決可能

会員数 219社 (令和3.12時点)

ユーザー企業 130社 (市内企業に限る)

ベンダー企業 89社 (市内外を問わず)

代表企業 (株)YE DIGITAL

事務局 北九州市、北九州産業学術推進機構

機運の醸成に向け、セミナーや導入事例を紹介。
4月には、北九州学術研究都市に**D X推進拠点を創設**予定。
また、7月には**北九州初となるD X展示会**も開催予定。

D X推進拠点創設(2022.4予定)

場所

北九州学術研究都市
(技術開発交流センター1階)

業務内容

- 生産性向上に関する啓発
- 相談対応やアドバイス
- ロボット、IoT、デジタル化などの先端技術の導入支援
- 人材育成支援
- 地域企業とベンダー、市内大学との連携促進



拠点の機能

- ①**集いの場** 地域企業、SIer、大学、金融機関等の集いの場を創出
- ②**体験機能** デジタル技術やロボットなどを気軽に体験
- ③**人材育成機能** 企業向け人材育成、大学生のインターンシップ型アルバイト
- ④**導入総合支援機能** D Xに向けた総合的な導入支援を実施
※**産学官金の連携による充実化**を図る

相談体制（デジタル化サポートセンター）も整備し、企業のDXを伴走支援。市内ベンダーが専門家となり無料で計画策定支援。**124件の相談に対し349回の専門家派遣を実施。**



電話・Web フォームから
ご相談



相談員との
初回面談で支援の方向
性を打合せ



相談員による
支援計画書の作成・
専門家の選定



支援の実施
(市内面談会場もしくは
訪問型支援、Web 会議等)

対象
北九州市内
中小企業

相談
無料

相談内容

- ・web会議の方法
- ・オンライン予約
システム導入相談
- ・wifi等ネット
ワーク環境構築相談
- ・効果的なSNS活用
など多岐にわたる

相談体制の特徴

- ・市内ベンダーが専門家となり伴走支援（計画策定）を実施。コンサルではなくベンダーが支援することで、計画策定で終わるのではなく、DX実践（システム導入）にスムーズにつながる。
- ・ベンダーが実施する専門家派遣経費は市が負担しているが、ベンダーにとっても契約につながりうるというメリットがあることから、経費は安価に抑えられる。

人材の課題も解決中。**経営者のマインドセット、企業内人材の育成**に加え、**首都圏人材、地元大学の知見も有効活用し、企業のDXを進めていく。**

社内人材育成

経営者のマインドセット



- ・第4次産業革命への対応力を経営トップ自らが検討できる
- ・**日本で唯一**のビジネススクール開催
- ・**60人以上**受講

企業内人材育成

- ・現場リーダー・従業員を対象にデジタル、IoTを学ぶ講座開催
- ・1万円以下で導入できるラズベリーパイなど取り組みやすいテーマ
- ・講座を通じて、DX実践につなげていく

社外人材活用

首都圏人材活用

- ・北九州に貢献したい首都圏の人材と市内企業をつなぐ事業を実施
- ・令和3年度新規事業
- ・**不動産DX、事業再構築DX**など**20件以上**の案件創出見込み

地元大学活用

- ・**インターンシップ型アルバイト**では、企業のデジタル化の課題を、**ITに強い地元大学生が解決**。
- ・企業のDX推進と学生の成長の双方の実現に寄与。地元企業を知ることによって学生の地元就職も期待。

北九州市独自の補助金制度創設。社員教育や事前検討、システム導入まで網羅的に補助。専門コンサルによる伴走支援も実施。令和2年度26件、3年度47件の支援実施。

事業名	中小企業のDX推進成長支援モデル事業
補助対象者	市内に事業所を有する中小企業
補助対象経費	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人材育成・教育、事前検討（コンサル） ・ 製品・サービス開発 ・ デジタル環境の整備 ・ システム導入 など
補助額	最大200万円 (補助率2/3以内)

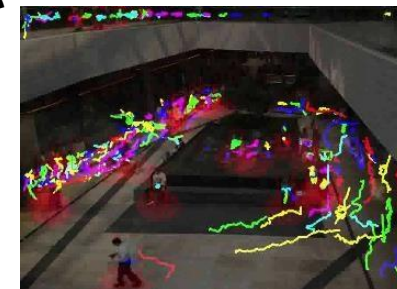
支援事例① AI画像検査開発企業

社内データベースのクラウド化

⇒リモートワーク可能となり、**多様な働き方が実現**

⇒日本と海外事業所の2拠点開発が可能となり**開発スピードアップ**

⇒AI画像検査を安価で実施できるようクラウドサービスも開発中。
真のDXにチャレンジしている。



支援事例② センサ製造販売企業

自社製品のリモートメンテナンス

⇒定期メンテナンスが現場に行かなくても遠隔で実施可能となり、コロナによる顧客プラントへの訪問制限下でも**安定的なメンテナンスが実現**

⇒故障内容によっては遠隔から復旧可能となり
対応スピードアップ

少子高齢化に直面する北九州市は、**介護分野のDX**にも注力。
デジタル化により生み出される「時間」を活用し、**介護の質向上、職場環境改善を実現していく。**

北九州モデルの核心（実践プロセス）

STEP 1

業務仕分け

- ☑ 介護施設で実施している介護・看護業務をリスト化し、その中から課題となる業務を抽出して、解決可能な領域に仕分ける

課題となる業務 (例示的)	課題解決が可能な領域における整理（仕分け）		
	業務オペレーションの整理	ICT・介護ロボット等の活用	外部人材の活用 (アウトソーシング)
記録 利用者医療情報の転記		介護記録システムによる一括反映 (転記不要)	
個別・全体巡回での様子観察・記録		見守り支援機器 介護記録システムで自動化	
巡回様子確認 共用スペースの見守り			介護職員以外で対応
居室の見守り		見守り支援機器を活用	

STEP 2

ICT・介護ロボット等の導入

- ☑ 仕分けた結果を基に、インカムや記録システム、見守り支援機器などのICT・介護ロボット等の一体的な導入及び周辺業務のアウトソーシング等を実施する



STEP 3

業務オペレーションの整理

- ☑ ICT・介護ロボット等の活用や業務量の需給バランス等を踏まえて、日中や夜間の業務オペレーションを整理する



ポイント 

上記3ステップの具体的なノウハウをパッケージ化

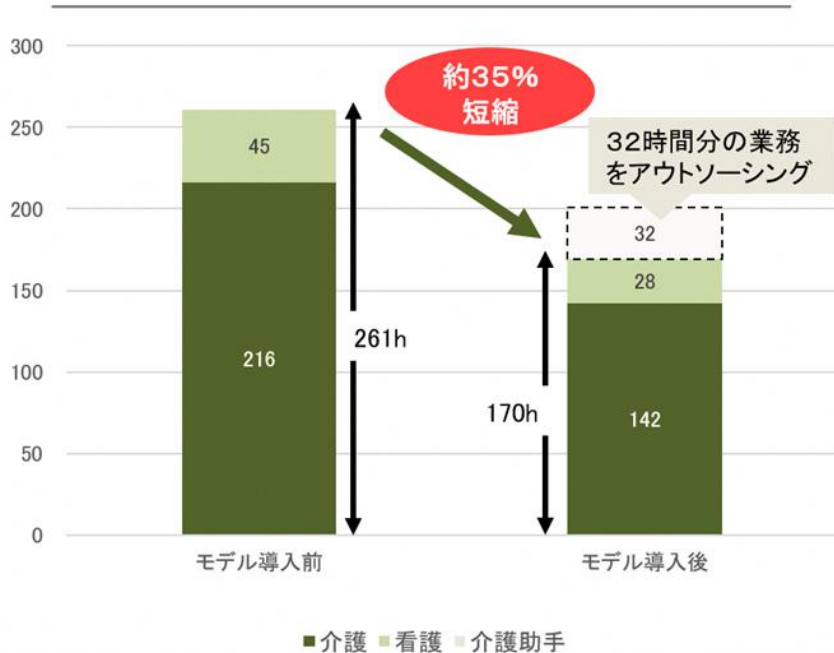
北九州モデルの
提供価値

「時間を生み出す介護」

業務効率化により生み出される職員の身体的・精神的・時間的な「ゆとり」を効果的に活用し、介護の質の向上及び職場環境の改善を実現

具体的には、**業務時間を35%効率化**。介護施設のニーズにあわせ、生み出された時間を「利用者と関わる時間」や、「有休取得の促進」、「弾力的な人員配置」等に活用。

業務時間全体の変化(時間)



効率化によって生み出された時間の活用

1 介護サービスの質の向上

- ・利用者と関わる時間の増加
- ・職員研修等の専門性向上活動の増加 等

2 職員の負担軽減

- ・夜勤回数の削減
- ・有休取得の促進 等

3 生産性向上

- ・業務量に見合う弾力的な人員配置
- ・日中・夜勤帯の人員配置の最適化 等

現在、**6施設で実施中**。今後、DXに自ら取組む施設とあわせ、**市内の3割の施設まで業務改善に取り組む施設を増加**させることで、**自律的な普及拡大を促進し介護DXを実現**する。

北九州市介護ロボット等
導入支援・普及促進センター



北九州モデルの導入支援



介護施設



介護現場の“ゆとり”の創出

北九州モデル導入施設の増加



地域における安定的な介護サービスの提供



既に6施設で実施中
市内の3割まで増加し、
行政の手によらない
自律的な普及拡大を
目指す。

地域社会（住民）視点

- ・ デジタル技術を活かして、**地域企業の生産性向上、ビジネスモデル進化による新たな価値創出**実現
- ・ 「将来にわたって成長を続ける企業」つまり「**働いて楽しい企業**」にすることで**若者の就職**につなげる
- ・ デジタル化の拠点を目指すことで、**地域に仕事の場を増や**していく

実行性

- ・ 企業、大学、金融機関を**市が中心**となり巻き込んでいく
- ・ **企業同士の自律的なつながり**を創出する仕掛けを構築することで、スピードアップしDXが加速
- ・ **切れ目のない支援体制**及び**市独自の予算投入**にて実行性を担保

影響力、効果

- ・ **産業界：DX実践企業300社、介護分野：モデル施設率3割**を目指し、着実に取組みを推進
- ・ それらモデル企業／施設が先行事例となり**さらなる普及拡大**を図る
- ・ 北九州市の取組みを進め、全国に発信することで、**他自治体のモデル**となる

新規性(ユニーク性)/継続性(拡張性)

- ・ ものづくりのまちである北九州市は、**全国ワーストの人口減少・少子高齢化**といった地域特性。これを逆手にとつて課題を解決するため、**産業界、介護分野**でいち早くDXに**チャレンジ**
- ・ 生産性向上システム、マッチングシステムなど**新たなチャレンジ**を続ける
- ・ **首都圏のリソース**も活用することで**地域でもDX**が加速